

合格体験記

塚原 杏梨

教員を目指したきっかけ

私が教員を目指したのは、高校生の時の恩師との出会いがきっかけでした。恩師からもらった一つ一つの言葉は、私にとって今でもお守りのような存在で、私もこんなふうの人に寄り添うことのできる仕事がしたいと思いました。

しかし、大学に進学した時点では教員になるつもりは全くありませんでした。なぜなら、自分が教員になれる自信がなかったからです。教員を目指す第一歩として、大学1年生の6月から塾講師のアルバイトを始め、その経験を通して自分に少しずつ自信をつけていきました。

教員免許取得にあたって行動したこと

私は本学の現代社会学部に入学しました。そのため、国語の教員免許を取得し教員を目指すためには、人文学部に転学部する必要がありました。1年次の3月に転学部試験を受け、2年次からは人文学部で教職課程を履修しました。

人文学部の単位の取得と、1・2年次配当の2年分の教職課程の単位の取得を同時に行うことになったので、慣れないキャンパスと通学も相まって、とても苦労したことを覚えています。

教員採用試験に向けて

教員採用試験に向けて、私が実践したことは、「周りの力を徹底的に借りる」ということでした。筆記試験対策では、教員採用試験に現役合格された先輩に連絡を取り、勉強に使用していたテキストと勉強法を聞いて同じように試験勉強を進めました。その先輩には、教育実習中にも大変お世話になりました。また、専門科目の勉強には大学入試の赤本や問題集を使いました。

面接試験対策では、KACの教職サポート室の指導員の先生方に大変お世話になりました。指導員の先生方は、Zoomで教育論の講義を実施してくださったり、場面指導・個人面接の練習を快く引き受けてくださったりしました。時間の許す限り何度も指導していただき、受け答えの内容だけでなく、お辞儀の角度や目線の配り方などの振舞い方の指導もしてくださいました。

また、模擬授業練習会や日曜特訓に参加することで、より本番に近い環境で集団面接や模擬授業の練習をすることができました。それに加えて、一緒に教員採用試験を受ける友人と切磋琢磨しあうことができる場だったと感じます。

モチベーションの保ち方

教員採用試験は6月中旬から一次試験がスタートし、8月下旬ごろに二次試験が終わる

ため、途中で力尽きることなくモチベーションを保ったまま努力し続けられるかが合否を分けるのではないかと思います。

私はモチベーションを保つために2つの方法を試していました。1つ目は、毎日何かしらの問題集に触れるということです。古文の単語帳を眺めるだけの日もありました。勉強のハードルを下げることで精神面を安定させることができていたと思います。2つ目は、目に見える努力の跡を目の前に置いておくことです。これまでの勉強時間の記録などがこれにあたると思います。私は使い終わったノートや書き込んだプリントを持っておいて、不安なときに見るようにしていました。

ほかにも、教育実習で担当したクラスの写真やもらった寄せ書きにある生徒からの励ましを見ると、頑張ろうという気持ちが湧いてきます。自分に合ったモチベーションの保ち方を知っておくとよいと思います。

最後に

大学入学時の私からすると、現在の私の状況は想像できないでしょう。目標を定めて努力をすると、ここまで人の人生は変わるのかと、改めて実感しています。大学で過ごした4年間は激動で、特に4年次は教員採用試験、教育実習、卒業研究とが重なり、すべてを投げ出したくなった瞬間もありました。しかしこの教職課程で頑張ってきたのも、本学の教職課程のサポートの手厚さや、ともに教員採用試験の受験期間を乗り越えてきた友人あつてのことだと感じます。

また、私はこの4年間で、教員採用試験の合格という自分の目標を達成することができました。自分の決断や努力によって目標が達成できたという成功体験は、これからの私の人生にも活きると信じています。

教員免許取得や教員採用試験の合格は簡単にできることではありませんが、本学の教員採用試験に対する手厚いサポートがあればきっと大丈夫です。皆さんの夢が叶うことを祈っています。